



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」93号
Issue Date	1995-07-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66432
Type	journal
File Information	yuin93.pdf





楡蔭

Yuin

北海道大学附属図書館報

目 次

○高度情報化時代における図書館への期待 医学部長 齋藤和雄…………… 1	○平成6年度図書館統計…………… 10
○もう一冊のクラーク聖書 文学部教授 土屋 博…………… 4	○お知らせ…………… 12
○教官著作寄贈図書…………… 7	○会議…………… 13
○新図書館情報サービスシステムについて —その1 稼動開始—…………… 8	○研修・講習会等…………… 14
	○人事往来…………… 15

高度情報化時代における図書館への期待

医学部長

齋藤和雄

先日、図書館長の三本木先生から楡蔭に掲載する原稿を書いてほしいとの依頼を受けた。楡蔭への原稿といえば十数年前に生命科学に関する所感を掲載して頂いたことを思い出す。当時、我が国では科学の流れが物理学や数学から生物学の時代の到来だ、などといわれ、医学においては、分子生物学的技法を用いた生命科学に関する研究に力を注ぐ気運が盛んであった。アインシュタインの相対性理論(1916)、オパーリンの生命の起源(1936)などの涇流を受けつつ、ワトソンとクリックのDNA 2重らせん構造の発見(1953)に続く分子生物学の台頭で、近年、生命科学の研究は一つのピークに達したようにさえ思われる。そして、生物化学はDNAの組換えや遺伝子操作が自由に行えるところまで進歩した。また、最近では細分化から統合の重要性が論じられ、とりわけ、医学においては生命倫

理やインフォームドコンセントが真剣に考えられる時代に入ったといえる。

一方、このように生命科学が進歩するなかで、脳研究の気運が非常に高まっている。これにはコンピュータサイエンスの進歩が関係するかもしれないが、もともとブラックボックスといわれる人の脳は、その機能の仕組みを解明することによって明らかにされる。そして、この脳機能の解明こそがコンピュータサイエンスの進歩の基盤につながるものと考えられる。すなわち、記憶、思考、判断、注意などの高次精神活動の解明はそのままコンピュータサイエンスに応用され、人工知能の開発に役立つのである。

ところで、図書館は、我々が科学を推進する際の支援組織として位置づけられることには誰も異存を唱えることはないと思われる。しかも、現代科学の実践において、図書館に対する我々

の期待は大きい。但し、その期待は人文科学、社会科学、自然科学、応用科学等の専門分野によって内容や要望に大きな差があると思われる。一般に図書館といえば立派な大きな建物と沢山の蔵書を保有していることをイメージする。

現在、北海道大学の図書蔵書数は平成7年3月31日現在で、和書1,593,592冊、洋書1,443,390冊、計3,036,982冊となっているが、これらの蔵書は各部局分散保有型であり、附属図書館が保管する蔵書数は和書で35.8%、洋書で32.0%、和書、洋書を合わせてわずか34.0%である。この形態は、HINESのような情報システムが備わっていないキャンパスにおける図書の貸出しと閲覧を中心とした利用法からすれば専門別学問分野や物理的距離からいってそれなりに便利であると考えられるが、情報化時代を迎え、情報システムが発達した現在、このような状態が将来も続くのであれば真に由々しいことである。また、北海道大学では平成7年3月31日現在、56カ国から475名の留学生を受け入れている。そのうちアジアからの留学生が80%を占めているが、彼らが自国の大学や研究所の図書館にアプローチし、利用するとすれば、手紙、電話またはファクシミリによる方法が圧倒的に多いと思われる。将来、夫々の国に情報ネットワークが充実し、彼らが北大からHINESを利用して情報検索を行うことができるようになれば、どんなに良いだろうか。同様に、北海道大学が大学間または学部間協定を結んでいる海外の大学は14カ国、43大学に渡っているが、将来、協定大学とリアルタイムで情報交換が可能になることを強く希望するものである。さらに、近い将来、図書館はインテリジェントビルに衣替えして、各研究室から居ながらにして直接希望の図書館情報を、学内はもちろんのこと、国内外からも得られるようになることを強く希望したい。

現行の部局分散型図書管理については、すでに三本木図書館長が昨年の大型計算機センター

ニュースと本誌でふれておられるが、私も職員の一員として全く同感であり、ここで全学をあげて図書館の在り方を真剣に考えなければならぬ時にきているのではないかと思われる。現実の話として、文系、理系、医系などを問わず、北海道大学で保有するすべての図書館情報をデータベース化して、附属図書館で管理し、各研究室からHINESを利用して図書館にアプローチし、必要な学内および国内外の情報を検索後、プリントアウトするか、またはCRT画面で読めるようになればどんなに良いだろうか。医学部ではこのような夢を少しでも実現しようとして、この度の新臨床講堂の建築に当たって、教育に活用する目的で視聴覚設備を充実した。すなわち、遠隔地の医療支援のために行われているPACCS伝送画像、手術室や剖検室の映像、病理診断組織標本をハイビジョンカメラで映像した画面、インターネットを通じて世界のデータベース化された大学や研究所の医学医療情報などを講堂のスクリーンに撮し出し、教育に役立てることができるようになったことである。さらに、大型計算機センターのスーパーコンピュータへの利用とスーパーハイウエーへの接続、学部または大学間テレビ授業、通信衛星を利用した双方向討論などが可能になり、生きた教育に役立てることができるようになったことである。

最近、どの学部でも教官選考に関連して選考対象者の業績をCD-ROMなどにより文献検索を行い個人の学術情報を得ている場合が多いと思う。そこで、データベースの収録内容と精度が問題となる。限られた専門分野の文献情報を検索するのであれば、最近2、3年の情報を除けば、ほぼ満足できるほどに検索でき、情報を居ながらにして手にすることができる。しかし、個人情報についていえば、経験上せいぜい70%位の学術情報しか得られず、まして業績のみならず教官としての資質を総合的に判断するための個人情報を得ようとしてもほぼ皆無であり、期待することは殆んどできない。業績に関して、

とりわけ日本人の情報は非常に煩雑であり、この理由は同姓同名が余りにも多く、フルネームでなく、姓とイニシャルが一つだけ入力されていることによる。精度をあげるために、所属コードを加えて検索するが、それでも判断しかねることが多くある。業績検索は過去に遡るので、所属が変わっていれば、なお困難である。また、日本語の文献であれば優秀な論文でも入力されておらず検索されないこともしばしばである。しかも時間とお金をかける割には情報は不十分で、複数の候補者を比較検討し、選考を進めていくことは困難である。結局、本人に直接業績を請求するのが確実で、それをもとに検討して行くのが得策となる。そこで提案したいのは、日本人の場合、発表論文には名のイニシャルをやめて、フルネームを記載する習慣にしているかどうかということである。換言すれば、CD-ROMなどの文献サービスのデータベースには情報をユーザーの立場に立って検索し易いように入力する工夫がまだまだ必要のように思われる。さらに最近、学術雑誌のインパクトファクターが示されるようになった。現在、欧文ジャーナルが中心で毎年更新されるようになってきている。これは個別の論文ではなく当該のジャーナルが広く読まれ、引用される程度を示しており、いわゆる広い専門分野にまたがる Science, Nature, Cell, Blood などの値が極端に高く、ごく限られた専門分野の雑誌のインパクトファクターは極端に低い値となっている。科学を国際競争の中で捉えて評価することは重要なことであるが、最先端の研究だけでなく、基礎的地味な研究も重要であり、両者が揃うことによって確固たる科学基盤が形成されるものと考えられる。また、最近国内学会の学会誌を英文化しようとする気運が高まっている。残念ながらこの理由は日本語が国際語として通用しないことによるが、このような思いをしている国は日本だけでなく数多くあるのも事実である。国際化の時代を迎えた今日、この努力は止むを得ないのかも知れない。

学問が急速に進歩する中で、各国の科学水準に大きな格差が生じていることも事実である。これには科学技術の進歩のために傾注する国の施策が大きく影響することは明らかである。1,000 億円以上を目指す文部省科学研究費の予算が今年度ようやく 900 億円まで達した。また、国立大学の建物が諸外国のそれと比べて余りにも貧弱であることは良く知られた事実である。建物だけならよいが、スタッフの数、設備、さらに独創性などの面においても同様のハンディがある。このように多くのハンディを背負いながら我が国の学者は所定の休暇もとらずフル回転をしている現状であるが、それでも国際競争に打ち勝つ水準までにはなかなか到達しない。外国人によって、日本人とは兎小屋に住み、働き蜂のように仕事熱心で勤勉な人種である、としばしば語られてきたが、経済成長に成功し先進国の仲間入りをした現在でも、まだそのイメージで語られているのは誠に残念である。これを拭いさるためにはまだまだ内需拡大をし、国内整備を図らなければならない。かけがえのないすばらしい日本文化に加えて、早急に国際水準に達しなければならないのはサイエンスの分野であり、国内整備の第一にあげてほしいのは大学であると考えるのは私だけではあるまい。以上のことは、我が国の科学水準がどうであったかを歴史的に考えても良く理解できることである。

終わりに図書館のインテリジェントビル化が一日も早く実現することを重ねて心から願う次第である。

(さいとう かずお)

もう一冊のクラーク聖書

文学部教授 土 屋 博

1876(明治9)年8月W.S. クラークが札幌農学校に赴任したとき、英語訳旧・新約聖書(Authorized Version) 30冊を携えており、やがて時期を見て(おそらく10月頃)、第一期生全員にそれぞれの氏名を記入して分け与えたことはよく知られている。この出来事は、翌年の「イエスを信ずる者の誓約」とともに、日本キリスト教史におけるいわゆる札幌バンドの原点として伝説化されるに至った。30冊の聖書は、クラークが横浜上陸後自ら聖書会社へ出向き、二三のやりとりののち購入したものだという話は、内村鑑三の講演に由来し、逢坂信彦によって若干の修正を加えられた上で、一般に流布されているが、今日では、多少事実と異なるのではないかと考えられる。クラーク自身の妻あての書簡には、「L.H. ギュリック博士が私を訪ねてきて、私に札幌の生徒用にと英語聖書30冊を呉れました。彼はアメリカ聖書協会の中国と日本担当の代理人です」と記されているからである(太田雄三『クラークの一年』昭和堂、1979年、63ページ)。このギュリックおよび彼の家族とクラークとは、翌年再び会っているのも、聖書贈呈に関する書簡の記述は確かであると思われる。また、学生たち一人一人の名前をクラークが書き入れたということは、大島正健によって伝えられてきたが、帰国後のクラークが行なった講演の新聞報道にも同様の記述が見られるので、間違いなく史実であろう。

その後これらの聖書がどうなったかは興味のあるところであるが、残念ながら現在大半が行方不明である。従来わずかに佐藤昌介のものが北海道大学附属図書館北方資料室に保存されているほか、大島と柳本通義のものが札幌独立キリスト教会にあるのみであった。ただし、このうち大島のものにおいては、表紙が紛失してい

るため、クラークの手による氏名の記入は見られない。聖書のいたみ具合から持ち主の信仰生活をおしはかることはできないし、持ち主の変化も考慮に入れなければならないが、大島のものがほとんどばらばらに分解しているのに対して、柳本のものはあまり使用されていないことがうかがわれる。佐藤のものはほどほどに読まれているようである。

さて、こうした状況の中で、このたび偶然的きっかけから、もう1冊のクラーク聖書が北方資料室の蔵書に加えられることになった。それは元来、やはり第一期生である黒岩四方之進に与えられた聖書であったが、種々の経緯で神田稔(理学部卒、函館在住)の手に渡り、筆者が仲介役となって氏から寄贈されたものである。目下判明している限りでの入手経路をさかのぼると、この聖書は1962(昭和37)年頃、日本聖公会札幌キリスト教会から古書店南陽堂へ売りに出された大量の書籍にまぎっていたらしく、当時北海道大学キリスト教青年会汝羊寮の寮生であった浅海護(法学部卒、札幌在住)がそれを店頭で見つけて購入し、所有することになった。その後同じく汝羊寮生であった伊藤義彦(農学部卒、静岡県在住)、さらに神田が受け継いだが、彼らがこの聖書の由来を正確に理解していたかどうかは定かではない。浅海と神田は表紙裏に自らの署名を書き記しているが、これは、クラークの書いた黒岩四方之進の名前を黒岩自身の署名とみなし、その形式になったものではないかと思われる。しかし、前述のように、クラークが書き記したことには証言があるし、佐藤・柳本両氏の名前に本人では考えにくい小さな誤記があることも、その間の事情を示唆する。また、「イエスを信ずる者の誓約」に見られる黒岩自身の署名は、聖書のものとは異なって

いる。

元来の所有者であった黒岩四方之進という人物については、いくつかの伝説が残されており、逢坂信彦『クラーク先生詳伝』（クラーク記念会、1956年、202ページ）には晩年の写真ものっているが、詳しい伝記的事実は今のところ不明である。一説によれば、1929（昭和4）年6月27日没と伝えられる。札幌独立キリスト教会の会員名簿には、最初期の会員として名をつらねているが、そこには生没年は記されていない。彼は東京でクラークによって選ばれた札幌農学校第一期生10名（大島による——逢坂では11名）の中の一人で、内田静とともに東京帝国大学の前身である開成学校から移ってきた。土佐出身で、クラークから「土佐ボーイ」と呼ばれて可愛がられたと伝えられる。相当荒っぽく気性であったらしく、北海道へ向かうさいに玄武丸の甲板上であれば、開拓長官黒田清隆の怒りをかっている。

札幌農学校在学中の黒岩の人となりを示す最も有名な出来事は、クラークに引率された雪の手稲山登山であった。大島の伝えるところによれば、1877（明治10）年1月30日一行14名は深い雪につつまれた手稲山にいどみ、山頂近くで大樹に付着した地衣を発見した。クラークは級中で一番背の高かった黒岩をさし招き、自分は雪の上に四つん這になり、背中にのって地衣をとるように命じた。黒岩はちゅうちょしながら靴をぬごうとしたら、さらにそのままのれと言われ、やむをえず土足でクラークの背にのり地衣をとったという。「三尺下がって師の影をふまず」という儒教道徳で教育されていた当時の日本人学生にとって、これはきわめて衝撃的な出来事であったらしく、黒岩自身ものちのちまでこのことを語っていた。しかし、アメリカ人クラークはおそらくそのような反応を予想せず、地衣の標本を作ることによって頭が一杯になっていたに違いない。行為者の意図とそれを受けとる側の感覚との間のずれが、新しい文化の形成に刺激を与えていくひとつの例がここに見られ

るように思われる。

札幌農学校第一期生のうち幾人かは、卒業後もしばらくの間札幌の山鼻で共同生活を営んでいた。黒岩もその一人であったが、郷里から母親をよびよせたこともあって、他のメンバーが独立したのちに、耕地ともども譲り受けることになったらしい。札幌独立キリスト教会会員名簿にも、母ノブの名前が記されている。その後の黒岩の活動についての詳しいことはわからないが、大島は次のように語る——「札幌農学校卒業後黒岩は、新冠御料牧場長の職を承って畜産界に大きな足跡を残し、退官後は日高国直別に一大農場を経営して村民から直別の聖人とあがめられた。私達六人組の一人として信仰を全うした彼は真に敬愛すべきクリスチャン・セントルマンであった」（大島正健『クラーク先生とその弟子たち』改訂増補版、教文館、1993年、107ページ）。

黒岩についてもうひとつ注目すべき事実は内村鑑三との関係である。内村は『余はいかにしてキリスト信徒となりしか』の中で、「パタゴニア人のK」という渾名で黒岩に言及している。パタゴニア人は南米南部の先住民で、黒岩は身体が大きかったためこのように呼ばれたのであろう。1897（明治30）年、内村は『万朝報』に入社し、ジャーナリストとしての華々しい活躍が始まるが、そのきっかけを作ったのが黒岩であると伝えられる。『万朝報』は1892（明治25）年黒岩涙香によって創刊された新聞であるが、その涙香の実兄が四方之進であった。悪評高い『万朝報』の涙香に感化を与えるため、四方之進が内村に入社を依頼したという説もある（鈴木範久『内村鑑三目録・ジャーナリスト時代』教文館、1994年、16ページ）。1901（明治34）年内村来札の折には、それまで都会の人間と交遊を断ち、新冠の御料牧場で馬を相手に生活していた黒岩も、札幌に出てきて感話を述べた。逢坂によれば、内村は「多分黒岩が一番僕の心の深いところを知っていてくれるであろう」と語っていたと言われる（逢坂、前掲書、同ペー

ジ)。さまざまな領域で社会的活動を繰りひろげた札幌農学校卒業生のなかにあって、黒岩は人に知られることなく、きわめて地味で真摯な一生を送ったように見受けられる。札幌農学校から北海道大学へと受け継がれた「大志の系譜」のうちには、このような人物もいたことを記憶しておきたい。

大島は黒岩の死を知っていたらしいが(大島, 前掲書, 247 ページ), その晩年がどのようなものであったかを伝えてはいない。黒岩の所有す

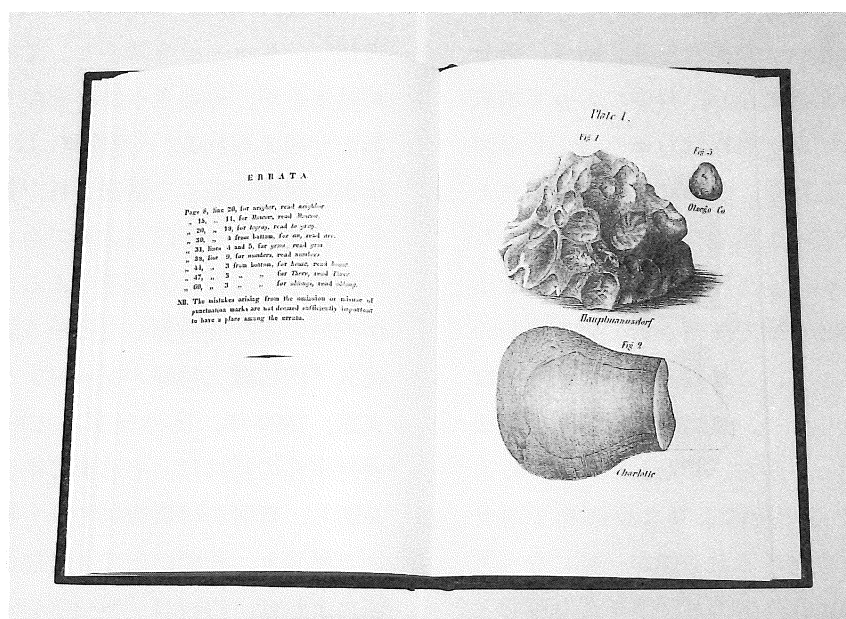
る聖書がなぜ日本聖公会の教会にあったのかも、現在ではわからない。しかし、1960 年代からほぼ 30 年の間、黒岩の同期生佐藤(北海道帝国大学初代総長)が命名した「汝羊寮」の寮生たちによって、それが大切に保管されてきたことには、奇しき因縁(キリスト教的に言えば摂理)を感じる。この 30 年は、筆者が汝羊寮で卒業を迎えてから今日までの期間とも一致する。

(つちや ひろし)

クラーク博士の学位論文(複製) が寄贈されました

W.S. クラーク博士のゲッチング大学学位論文(複製)が、7月3日(月)に来学した博士の伯父の5代目に当たるマサチューセッツ工科大学教授のジョージ W. クラーク博士から寄贈されました。1852年に書かれたこの論文は、「ON METALLIC METEORITES」と題した隕石に関するもので、当時としては最新の学問であったということです。

附属図書館では蔵書とすることにしました。



教官著作寄贈図書 平成 7. 4. 1 ~ 7. 7. 31

【本 館】

名誉教授

柏倉俊三 ふるさとの余韻 「柏倉先生の和歌詩集」刊行会 1995

文 学 部

栗生澤猛夫 (訳) イヴァン雷帝 成文社 1994

栗生澤猛夫 (共編) ロシア 聖とカオス 彩流社 1995

法 学 部

今井弘道 <市民的政治文化>の時代へ 河合出版 1995

木佐茂男 地域振興政策課題調査研究事業報告書 ドイツの自治体連合組織
(勸北海道市町村振興協会 1995)

経済学部

鈴木良始 日本の生産システムと企業社会 北大図書刊行会 1994

理 学 部

島村英紀 地球内部奥秘趣談 地震出版社 1994
(「教室ではおしえない 地球のはなし — 硬くない! 丸くない!」
講談社ブルーバックス 1991 の中国語版と朝鮮語版)

島村英紀 探索地震の奥秘 地震出版社 1986
(「地震をさぐる」国土社 1982 の中国語版)

島村英紀 奇妙的深海世界 地震出版社 1990
(「探海にもぐる」国土社 1987 の中国語版)

スラブ研究センター

林 忠行 平和図書 No.11 東欧の歴史と民族問題 (勸広島平和文化センター 1995)

林 忠行 (共編) 講座スラブの世界 第7巻 スラブの国際関係 弘文堂 1995

電子科学研究所

下澤楯夫 スケーリング：動物設計論 — 動物の大きさは何で決まるのか? —
コロナ社 1995

【北分館】

名誉教授

柏倉俊三 ふるさとの余韻 「柏倉先生の和歌詩集」刊行会 1995

たくさんのご恵贈、ありがとうございました。

今後とも図書館資料の充実のため、みなさまのご協力をお願いいたします。

新図書館情報サービスシステムについて

その1 稼働開始

平成7年3月13日、新図書館情報サービスシステム（以下、新システム）が稼働開始しました。原則として、土曜・日曜を含め、24時間運用しています。

新システムは、大規模図書館としては初めてOSにUNIXを採用し、図書業務の効率化のみならず、図書館の学術情報サービスを大学における情報活動の一貫として展開することを目標としています。

本号では、その概要を紹介し、次号以降で個々の情報サービスについて詳しくお知らせします。

1 システムの全体構成

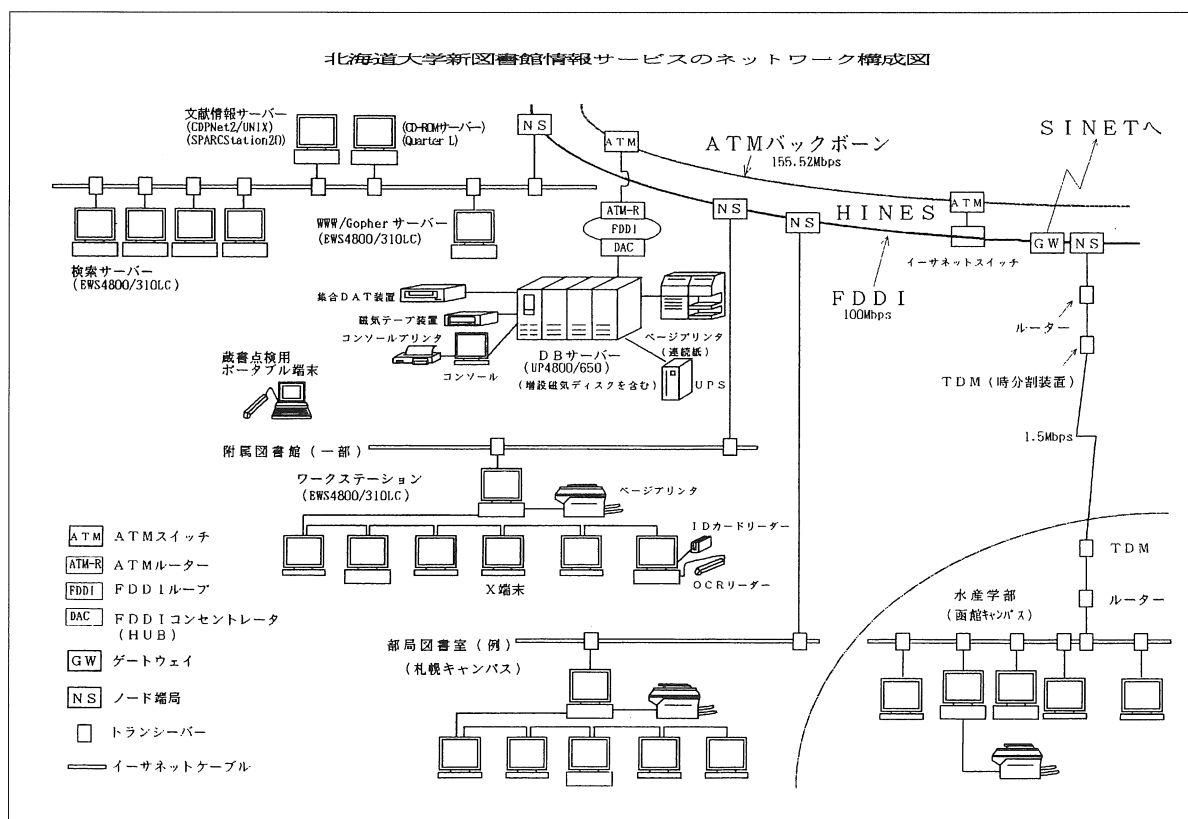
新システムのハードウェア及びネットワーク構成は図の通りです。

高性能のデータベースサーバと多数のワークステーションで構成するクライアント／サーバシステムで、通信プロトコルとしてTCP/IPを採用しています。

2 OPAC (オンライン蔵書検索)

■【閲覧室 OPAC】

図書館及び各部局の図書室で、北大の蔵書を検索するための専用端末を備えています。画面の案内文だけで戸惑うことなく利用いただける



シンプルなものになっています。なお、現在、更なる応答速度の向上と使い易さを図るため改良を加えています。画面（ウィンドウ）構成も若干変わりますので、次号で詳細な案内をいたします。

■【ラインモード OPAC】

一般的な通信ソフトを備えたパソコンでも利用できる OPAC です。研究室や自宅からも原則として 24 時間いつでも利用できます。

なお、IP 接続でアクセスするときは、次のホストに接続してください。

clark1. lib.hokudai.ac.jp (133.50.30.130)

clark2. lib.hokudai.ac.jp (133.50.30.131)

また、CS 接続（自宅から電話回線で HINES に接続したものを含む）でアクセスするときは

c clark

と入力してください。

■【Mosaic 版 OPAC】

後述の図書館 WWW サーバで提供する画面誘導方式の OPAC です。Mosaic や Netscape などのビューアで検索できます。

3 文献情報検索サービス

雑誌論文等の目次や抄録を検索できます。

(1) 提供しているデータベース

- ・MEDLINE フルセット(1966 年-Current)
- ・Current Contents 全分野(過去 1 年分。当初は半年分)
- ・BIOSIS(1992 年-Current)

(2) 利用資格等

本学の教職員で、データベース使用料(データベース毎に年額 1 万円)を校費で支出可能な方であればどなたでも利用できます。

* BIOSIS を利用できる機器は PC 98 とその互換機です。詳しくは情報システム課(内線 4025)にお問い合わせください。

4 図書館総合情報サービス WWW サーバ

図書館サービスを中心に学術情報活動にかかわる多様な情報サービスを総合的に利用できるようにするために、図書館 WWW サーバを試験的に運用しています。

北大図書館 WWW サーバの URL は、

<http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp> です。

WWW サーバによる情報サービスのメニュー構成は以下のとおりです。詳細については次号でご案内します。

(1) 北大図書館利用案内

- ・利用案内
- ・投書箱
- ・北大附属図書館館報「楡蔭」
- ・図書発注依頼(利用者限定)準備中

(2) 北大図書館文献情報サービス

- ・Mosaic 版 OPAC
- ・ラインモード OPAC
- ・Medline 及び Current Contents(利用者限定)

(3) 学術文献情報サービス(他機関)

- ・NACSIS-IR, JICST, DIALOG など
- ・外部データベースの利用
- ・国内国外の主要図書館の OPAC 及び Uncover などの文献データベースの利用

(4) 北大研究・教育情報

- ・研究協力課データベース

(5) 計算サービス

- ・大型計算機センターの利用
- ・情報処理教育センターの利用

(6) 電子メール(HINES, NACSIS)

- ・HINES 電子メール/電子掲示板
- ・NACSIS-MAIL の利用

(7) キャンパス情報

- ・COOP 情報

(8) 北大の WWW サーバの利用

(9) 国内国外の WWW サーバの利用

(情報システム課 情報処理掛)

平成6年度 図書館統計

平成7年3月31日現在

部局別蔵書冊数				
区 分 部 局	和	洋	合 計	備 考
附 属 図 書 館	570,826	461,591	1,032,417	
法 学 部	(76,118)	(135,961)	(212,079)	
経 済 学 部	(94,735)	(62,281)	(157,016)	
北 分 館	144,980	88,908	233,888	
言 語 文 化 部	(22,548)	(65,011)	(87,559)	
文 学 部	110,027	149,105	259,132	
教 育 学 部	83,497	30,798	114,295	
経 済 学 部	4,751	2,157	6,908	
理 学 部	48,640	153,863	202,503	情報処理教育センター、実験生物センター含む
医 学 部	68,181	97,247	165,428	附属病院、アイソトープ総合センター含む
歯 学 部	18,048	17,764	35,812	附属病院含む
薬 学 部	6,222	16,872	23,094	機器分析センター含む
工 学 部	178,761	148,427	327,188	量子界面エレクトロニクス研究センター、エネルギー先端工学研究センター含む
農 学 部	208,440	117,197	325,637	附属農場、附属演習林含む
獣 医 学 部	11,262	22,536	33,798	
水 産 学 部	78,954	50,451	129,405	
教 養 部	3,023	976	3,999	
大学院地球環境科学研究科	10,859	6,388	17,247	
低 温 科 学 研 究 所	7,903	18,453	26,356	
電 子 科 学 研 究 所	6,169	19,410	25,579	
免 疫 科 学 研 究 所	1,489	7,617	9,106	
触媒科学研究センター	3,370	11,958	15,328	
スラブ研究センター	859	15,567	16,426	
大型計算機センター	963	2,182	3,145	
事 務 局	1,824	156	1,980	留学生センター、保健管理センター含む
医 療 技 術 短 期 大 学 部	24,544	3,767	28,311	
計	1,593,592	1,443,390	3,036,982	

() は統合による附属図書館又は北分館所蔵分で内数

部局別受入冊数

区 分 部 局	図 書 ・ 受 入 冊 数							雑 誌 受 入 種 類 数						
	和 書			洋 書			合計	和 雑 誌			洋 雑 誌			合計
	購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他		購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他	
附 属 図 書 館	4,726	1,312	3,301	4,802	749	5,310	20,200	325	1,901	0	417	443	0	3,086
法 学 部	(876)	(56)	(549)	(2,185)	(110)	(1,208)	(4,984)	(153)	(351)	0	(347)	(52)	0	(903)
経 済 学 部	(1,208)	0	(99)	(1,083)	(37)	(181)	(2,608)	—	—	—	—	—	—	—
北 分 館	3,961	58	12,418	1,838	526	6,778	25,579	217	415	0	296	13	0	941
言 語 文 化 部	(1,531)	(30)	(69)	(1,707)	(30)	(162)	(3,529)	(17)	(43)	0	(166)	(2)	0	(228)
文 学 部	2,253	199	3,085	4,505	650	5,422	16,114	166	851	0	740	36	0	1,793
教 育 学 部	2,599	25	426	411	179	146	3,786	555	720	9	181	10	1	1,476
経 済 学 部	0	0	1,044	0	0	262	1,306	142	540	1	274	42	1	1,000
理 学 部	342	4	97	1,038	231	1,838	3,550	149	264	1	730	344	4	1,492
医 学 部	604	134	669	381	62	1,702	3,552	282	696	0	714	170	3	1,865
歯 学 部	317	4	326	71	7	441	1,166	153	184	0	225	54	0	616
薬 学 部	129	13	121	66	8	472	809	39	53	0	125	5	0	222
工 学 部	494	29	523	633	18	1,060	2,757	313	555	3	810	119	0	1,800
農 学 部	1,476	113	1,030	497	20	1,079	4,215	335	1,035	4	612	371	2	2,359
獣 医 学 部	71	22	21	93	30	251	488	48	59	0	118	91	1	317
水 産 学 部	417	62	668	81	14	779	2,021	197	694	3	258	488	1	1,641
教 養 部														
大学院地球環境科学研究科	218	16	166	206	2	227	835	45	86	0	125	38	0	294
低温科学研究所	64	15	91	81	4	458	713	25	348	2	103	236	1	715
電子科学研究所	115	29	18	58	10	435	665	43	120	2	113	10	0	288
免疫科学研究所	5	0	0	20	0	211	236	15	102	0	53	1	0	171
触媒科学研究センター	9	1	12	88	0	128	238	17	1	0	42	12	0	72
スラブ研究センター	75	34	29	1,217	14	909	2,278	12	23	0	411	69	0	515
大型計算機センター	6	0	0	148	0	0	154	36	0	0	52	33	2	123
事 務 局														
医療技術短期大学部	712	48	169	107	0	63	1,099	151	190	1	63	3	3	411
計	18,593	2,118	24,214	16,341	2,524	27,971	91,761	3,265	8,837	26	6,462	2,588	19	21,197

注 1. () は統合による附属図書館または北分館所蔵分で内数
 2. 「その他」は雑誌を製本して受け入れたもの、及び管理換で増となったもの。

お知らせ

分館名の改称

平成7年4月1日付けで教養部が廃止されたことにより、教養分館が**北分館**に改称されました。

図書館委員会委員名簿

平成7年6月1日現在

部 局	官 職	氏 名	任 期
	館 長	三本木 孝	平成6. 4. 1～平成8. 3.31
	分 館 長	杉 山 滋 郎	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
	事 務 局 長	小 林 孝 男	平成6. 7.25～
文 学 部	教 授	栗生澤 猛 夫	平成6. 4. 1～平成8. 3.31
教 育 学 部	〃	横 湯 園 子	平成6. 4. 1～平成8. 3.31
法 学 部	〃	常 本 照 樹	平成6. 4. 1～平成8. 3.31
経 済 学 部	〃	石 坂 昭 雄	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
理 学 部	〃	増 田 道 夫	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
医 学 部	〃	齋 藤 秀 哉	平成6. 4. 1～平成8. 3.31
歯 学 部	〃	小 口 春 久	平成6. 4. 1～平成8. 3.31
薬 学 部	助 教 授	横 井 毅	平成6. 4. 1～平成8. 3.31
工 学 部	教 授	田 頭 博 昭	平成5.10. 1～平成7. 9.30
農 学 部	〃	寺 尾 日出男	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
獣 医 学 部	助 教 授	葉 原 芳 昭	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
水 産 学 部	教 授	太 田 亨	平成6. 5. 1～平成8. 4.30
言 語 文 化 部	助 教 授	野 田 克 己	平成7. 5. 1～平成9. 4.30
地球環境科学研究科	教 授	西 則 雄	平成7. 5.28～平成9. 5.27
低 温 科 学 研 究 所	〃	芦 田 正 明	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
電 子 科 学 研 究 所	〃	田 村 守	平成6.10. 1～平成8. 9.30
免 疫 科 学 研 究 所	〃	上 出 利 光	平成6. 4. 1～平成8. 3.31
医 学 部 附 属 病 院	〃	松 田 英 彦	平成6. 9.16～平成8. 9.15
触媒化学研究センター	〃	岩 本 正 和	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
スラブ研究センター	〃	原 暉 之	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
医療技術短期大学部	〃	長 坂 行 雄	平成7. 4. 1～平成9. 3.31

分館委員会委員名簿

平成7年6月1日現在

部 局	官 職	氏 名	任 期
	分 館 長	杉 山 滋 郎	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
文 学 部	教 授	栗生澤 猛 夫	平成7. 4. 1～平成8. 3.31
言 語 文 化 部	助 教 授	野 田 克 己	平成7. 5. 1～平成8. 4.30
教 育 学 部	教 授	横 湯 園 子	平成7. 4. 1～平成8. 3.31
理 学 部	教 授	増 田 道 夫	平成7. 4. 1～平成9. 3.31
工 学 部	教 授	田 頭 博 昭	平成7. 4. 1～平成7. 9.30
獣 医 学 部	助 教 授	葉 原 芳 昭	平成7. 4. 1～平成9. 3.31

会議 (7.3.1~7.7.31)

【学 外】

○第 27 回国立大学図書館協議会北海道地区協議会
 議 題

〈平成 7 年 4 月 27 日(木)〉

当番校：帯広畜産大学

協 議 題

- ・利用機会の拡大について
- ・地域における館種を超えた図書館間の相互協力について
- ・ILL サービスの振興方策について
- ・第 42 回国立大学図書館協議会総会について
- ・第 42 回国立大学図書館協議会総会時の研究集会における発表事例の推薦について
- ・次期当番校について

報告事項

- ・北海道大学図書館講演会について
 - ・平成 7 年度学術情報システム地域講習会の開催について
- 〈出席者：図書館長 三本木孝, 事務部長 遠藤勝久, 情報管理課長 鳥屋部順, 情報サービス課長 内藤英雄, 情報システム課長 清水二郎〉

○国立大学図書館協議会理事会

〈平成 7 年 5 月 25 日(木)〉

当番校：東京大学

〈出席者：図書館長 三本木孝, 事務部長 遠藤勝久, 情報管理課長 鳥屋部順, 情報システム課長 清水二郎〉

○平成 7 年度国立大学附属図書館事務部課長会議
 議 題

〈平成 7 年 5 月 26 日(金)〉

当番校：東京医科歯科大学

- ・大学図書館の当面する諸問題について
- 〈出席者：事務部長 遠藤勝久, 情報管理課長 鳥屋部順, 情報システム課長 清水二郎〉

○第 42 回国立大学図書館協議会総会

〈平成 7 年 6 月 28 日(水)~29 日(木)〉

当番校：東京工業大学

協議事項等

第 1 日目

- ・予算・決算等協議会の維持・運営に関する事項
- ・平成 7 年度事業計画について
- ・文部省所管事項説明
- ・分科会（図書館の予算, 人事, 運営, サービスに関する協議）

第 2 日目

- ・研究集会「図書館活動における創意・工夫・研究成果等の事例発表」
 - ・全体会議
- 〈出席者：図書館長 三本木孝, 事務部長 遠藤勝久, 情報管理課長 鳥屋部順, 情報サービス課長 内藤英雄〉

【学 内】

○第 158 回図書館委員会

〈平成 7 年 3 月 16 日(木)〉

議 題

- ・平成 8 年度概算要求事項について
- ・図書館備え付け電子資料について
- ・北海道大学書誌・所在情報の取扱いに関する要項の一部改正（案）について

報告事項

- ・新図書館システムについて

○第 159 回図書館委員会

〈平成 7 年 5 月 16 日(火)〉

議 題

- ・附属図書館将来構想検討小委員会（仮称）の設置について
- ・北海道大学図書目録データベース第 3 期遡及入力事業 5 か年計画について
- ・その他

(1)平成 7 年度図書資料（大型コレクション）

収書計画について

(2)平成 7 年度自然科学系図書資料収書計画について

報告事項

- ・北分館委員会委員の選出について
- ・平成 8 年度歳出概算要求について
- ・新図書館情報システムの導入について

○第 116 回分館委員会 〈平成 7 年 5 月 25 日(木)〉

議 題

- ・平成6年度教養分館図書費決算報告について
- ・平成7年度北分館図書費要求額(案)について
- ・分館委員会申合せ・要項等の見直しについて
- ・北分館備付資料の推薦依頼について

報告事項

- ・平成7年度前期「分館演習室」の利用申込について
- ・大学祭開催期間中の夜間開館の中止について
- 図書担当掛長会議 〈平成7年6月9日(金)〉
- 第160回図書館委員会
〈平成7年7月10日(月)〉

議 題

- ・平成6年度決算及び平成7年度予算配当(案)について

報告事項

- ・附属図書館将来構想検討小委員会について
- ・第42回国立大学図書館協議会総会について
- ・外部データベース検索サービスシステムの運用状況について
- ・平成6年度遡及入力結果報告及び平成7年度入力予定について
- ・平成7年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(北方関係資料総合データベース)の交付内定について
- ・平成7年度図書資料(大型コレクション)の選定結果について
- ・平成7年度自然科学系図書資料の選定結果について
- 附属図書館将来構想検討小委員会第1回会議
〈平成7年7月10日(月)〉

議 題

- ・委員長の選出について
- ・附属図書館の将来構想について

研修・講習会等(7.4.1~7.7.31)

- 北海道大学図書館情報システム新任担当者実務研修(場所:附属図書館)

- ・端末基本操作研修 4月7日(火)
13:00~16:30
受講者 15名 担当:情報処理掛
- ・目録管理システム研修 4月17日(月)~19日(水) 9:00~16:30
受講者 8名 担当:目録情報掛
- ・雑誌管理システム研修 4月10日(月)~12日(水) 9:00~16:30
受講者 7名 担当:学術情報掛
- ・検索・閲覧システム研修 4月13日(木) 9:30~16:30
受講者 12名 担当:資料サービス掛
- ・図書管理システム研修 4月14日(金) 9:30~16:30
受講者 5名 担当:図書受入掛
- ・ILL管理システム研修 4月20日(木)~21日 9:00~16:30
受講者 12名 担当:相互利用掛
- 平成7年度第1回ILLシステム講習会〈平成7年6月20日(火)~21日(水)〉(場所:学術情報センター,主催:学術情報センター)
受講者:佐々木圭(情報サービス課相互利用掛)
- NACSIS-IR地域講習会〈平成7年6月22日(木)~6月23日(金)〉
受講者:20名(場所:附属図書館)
- 情報システム統一研修(平成7年度第2四半期)
第1回システム・プランナーコース 〈平成7年7月3日(月)~26日(水)〉(場所:九段合同庁舎,主催:総務庁)
受講者:杉田茂樹(情報システム課情報処理掛)
- 平成7年度大学図書館職員長期研修〈平成7年7月10日(月)~7月28日(金)〉(場所:図書館情報大学,主催:文部省及び図書館情報大学)
受講者:山田達雄(情報サービス課資料サービス掛)
- 平成7年度図書館等職員著作権実務講習会〈平成7年7月26日(水)~28日(金)〉(場所:東京大学,主催:文化庁)
受講者:佐々木圭(情報サービス課相互利用掛)

人事往来

平成7.4.1～7.7.31

4月1日付け異動

採用

小坂麻衣子 附属図書館情報システム課学術情報掛
吉田 裕子 工学部材料化学系専攻図書室

併任・配置換え等

杉山 滋郎 附属図書館北分館長（9.3.31まで）（北海道大学大学院理学研究科教授）
内藤 英雄 附属図書館情報サービス課長（豊橋技術科学大学教務部研究協力主幹）
清水 二郎 附属図書館情報システム課長（筑波大学総務部情報処理課長）
高塚 恵 附属図書館情報管理課庶務掛長（小樽商科大学庶務課文書法規係長）
山口 國雄 附属図書館情報管理課図書受入掛長（附属図書館情報システム課目録情報掛長）
佐藤 清一 附属図書館情報管理課北分館情報管理掛長（附属図書館情報管理課教養分館情報管理掛長）
櫻庭 恒彌 附属図書館情報サービス課参考調査掛長（附属図書館情報管理課図書受入掛長）
小笠原敏明 附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛長（豊橋技術科学大学教務部図書課運用係長）
岡田 潔 附属図書館情報システム課目録情報掛長（附属図書館情報サービス課参考調査掛長）
佐藤 透 経済学部図書掛長（低温科学研究所図書掛長）
坪田 充弘 理学部図書掛長（経済学部図書掛長）
阿部 勝義 歯学部総務課庶務掛長（附属図書館情報管理課庶務掛長）
黒田 泰行 薬学部図書掛長（理学部図書掛長）
杉田 福夫 獣医学部図書掛長（旭川医科大学教務部図書課情報サービス係長）
岡本 憲吉 低温科学研究所図書掛長（附属図書館情報サービス課教養分館情報サービス掛長）
近藤 幸子 附属図書館情報管理課会計掛会計主任（大学院地球環境科学研究科会計掛会計主任）
山田 達雄 附属図書館情報サービス課資料サービス掛（農学部図書閲覧掛）
小林真木子 附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛（医学部図書閲覧掛）
伊藤ますみ 文学部図書掛（理学部学科図書室）
落合 典子 文学部言語文化部人文辞書資料室（教養部人文辞書資料室）
松野とも子 法学部スラブ研究センター事務掛（附属図書館情報システム課目録情報掛）
伊藤 啓子 理学部図書掛（医学部図書閲覧掛）
福井みゆき 理学部専攻図書室（工学部総務課図書閲覧掛）
栄森 義晴 医学部図書閲覧掛（文学部図書掛）
桑野 勇次 医学部図書閲覧掛（工学部総務課図書閲覧掛）
武田 靖恵 工学部総務課図書整理掛（附属図書館情報サービス課教養分館情報サービス掛）
村上 豊 工学部総務課図書整理掛（医療技術短期大学部図書室）
櫻 洋子 工学部総務課図書整理掛（法学部スラブ研究センター事務掛）
北村 雅子 工学部総務課図書整理掛（厚生課）
鎌田由紀子 農学部図書整理掛（医療技術短期大学部図書室）
佐藤真紀子 農学部図書閲覧掛（附属図書館情報システム課目録情報掛）

小山千恵子 医療技術短期大学部図書室(工学部総務課図書整理掛)
中條 将喜 医療技術短期大学部学務掛(図書室)(附属図書館情報サービス課資料サービス掛)

■ 転 出

大場 秀穂 国立特殊教育総合研究所運営部研修情報課長(附属図書館情報システム課長)
湯本 一義 千葉大学附属図書館情報管理課長(附属図書館情報サービス課長)
山田 重幸 旭川医科大学業務部医事課収納係長(附属図書館情報管理課会計掛主任)
畠山 輝敏 豊橋技術科学大学教務部図書課運用係長(農学部図書整理掛)
三橋 修 旭川医科大学教務部図書課(附属図書館情報サービス課資料サービス掛)

3月31日付け異動

■ 定年退職

斎藤 温子 薬学部図書掛長
田中 一郎 獣医学部図書掛長

7月16日付け異動

■ 配置換

砂塚孝子 施設部設備課第一電気掛(附属図書館情報システム課学術情報掛)

編集後記

- この号から創刊以来のB5判からA4判に変えることになりました。誌名、表紙デザイン等は、これまでどおりとしましたが、少しでも読みやすくするため2段組を取り入れました。
- 図書館統計(年度統計)は、今年度から「北海道大学附属図書館概要」に移すことにし、館報には蔵書統計と受入統計のみを載せることにしました。
- 北大図書館 WWW (<http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/index.html>)でも館報をお読みいただけるよう検討しています。
- 今後は、「図書館利用者のため」の視点から編集したいと思いますので、ご意見をお寄せください。(Z.T.)

北海道大学附属図書館報「榆蔭」(ゆいん) 通号 93号

平成7年(1995年)7月31日発行 発行人 附属図書館事務部長 遠藤 勝久

編集事務 鳥屋部順・金子 敏・佐藤清一・佐藤依理子・田中健太郎・中野真弓美・木下 彰・
高野直樹・吉田恭子・片桐和子・土田健治・結城憲司・高塚 恵

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北8条西5丁目 TEL 706-2967

印刷所 (株)アイワード